

勉強における「凡事徹底」とは

— CRT 「開倫塾の時間」 第 1302 回放送内容 —

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)今週は、大変なことがたくさんありました。その1つは3月7日にあった栃木県の県立高校の入学試験です。受験生の皆さんは1年間ないし3年間一所懸命に勉強した成果が出せたと思います。皆さん、本当に頑張っていて素晴らしかったと思います。来週は発表がありますので、勉強した成果をしっかりと確かめていただければと思います。
- (3)さて、先週もお話したように、「開倫塾の時間」はお陰様で放送が始まって丸25年が経ちました。今日は26年目に入った第2週、1302回目の放送ですので、「凡事(ぼんじ)徹底」というお話をさせていただきます。「凡事徹底」とは、今やっている一つ一つのことを丁寧に丁寧に手抜きなく徹底的にやってみて成果を出そうという方法です。この「開倫塾の時間」は勉強の仕方についてお話をする番組ですので、今日はその秘訣みたいなもの、つまり今までに1300回以上お話しさせていただいた内容をまとめてお話しますので、ぜひお聴きいただければと思います。

2. 勉強における「凡事徹底」とは

- (1)勉強で一番大切なのは、これはこういうことなのかと「うんなるほど」と「理解」することです。学校の授業を聴いたり、塾に行っている方は塾の授業を聴いたり、教科書や参考書や辞書を活用しながら丁寧に読んだりして、「このことはこういうことなのか」と「納得する、十分に理解」することが勉強では何よりも大切です。学校や学習塾の授業ほど大切なものはないと言えます。それなのに、学力の高い人と低い人が出てくるのはどうしてでしょうか。私は、差が出るのは「理解」したあとのことで、「理解」したことをどのように身に付けるかで学力の高い低いが決まるのだと思います。
- (2)この「理解」したことを身に付けることを、私は「定着」と呼んでいます。「定着」するためにはいくつかの作業がありますので、以下に詳しくお話したいと思います。
- (3)「定着」するための作業は、全部で7つあります。

- ① 1つ目は、授業中に取ったノートは、あとで勉強しやすいようにその日のうちに整理する。また、その日の授業で大事なことをノートにまとめることも大事です。つまり、ノートをあとで勉強しやすいようにすることが1つ目です。
- ② 2つ目は、その日にやった授業で意味のわからない語句があったら、辞書で調べることです。電子辞書で調べてもよいのですが、大学などによっては定期試験や授業中に辞書の持ち込み可というところもあり、その場合は電子辞書の持ち込みは普通禁止です。大学の定期試験等で電子辞書ではなく紙の辞書を引きなさいと言われても、引き慣れていないとなかなか引けませんので、普段から紙の辞書を引く練習をしておいたほうがよいと私は思います。また、意味調べノートを作って下さい。意味のわからない語句があったら辞書で調べて、科目ごとの意味調べノート・語句調べノートに書き写すこと、特に、書き写した語句の意味をよく「理解」した上で確実に覚える、正確に書けるまでにすることが大事です。
- ③ 3つ目は、学校の教科書や学習塾のテキスト、参考書、語句ノートなど今勉強しているものをスラスラ読めるようになるまで音読練習するとよいと思います。音読というのは、声を出して読むことです。声を出して読む練習を積んでスラスラ読めるようになると、必ず中身が頭に入ります。「定着」します。ですから、ぜひお勧めします。では何回ぐらい読めばよいかといいますと、5回～10回でもよいですが、20回～30回読めばさらによいですね。私の尊敬する國弘正雄先生という同時通訳の先生は、中学生の時に英語の教科書を何と500回～1000回読んだという話を聞きました。このようにすると本当によく身に付きますので、ぜひやって下さい。スラスラ読めるようになるまで音読練習を何回もやる、これが3つ目です。
- ④ 4つ目は、大事な語句は正確に書けるようになるまで書き取り練習をすることです。書き取り練習をほとんどしなくてもよい点数が取れる方もいますが、できれば手で書いて覚えるのがよいです。英語だけでなく、国語・数学・理科・社会も全部書き取り練習をする。音楽もいいなと思った曲については楽譜が書けたらもっといいわけですよ。図やイラストもかけるようにすることです。
- ⑤ 5つ目は、一度やった計算や問題をもう一度やり直すことです。一回やっておしまいではなく、もう一度必ずやり直す。できれば正しい答えがパッパッパッと出るまで何度でも計算練習や問題練習をやったほうがよいと思います。これが5つ目です。
- ⑥ さらにお勧めなことが、あと2つあります。その1つ、つまり6つ目は、どんな問題でも過去に出た問題を5年分やることです。例えば、先日あった大学入試センター試験や県立高校の入学試験の問題も5年分をやったほうがよいですね。何回やるのがよいかといえば、私の考えは5回です。5回ぐらいはやり直すと、中身が結構わかってきます。何が出題されるかわかります。
- ⑦ 最後の7つ目は、一度間違えた問題を間違いノートにまとめてもう一度やり直すことです。間違いノートを作ると自分の弱点が全部わかります。そして、その問題を中心に勉強すると学力

がつきます。ですから、これができたら本当に素晴らしいと私は考えます。

(4)もう一度お話しすると、「定着」のための作業は全部で7つあります。

- ① 1つ目はノートを整理する。
- ② 2つ目は辞書で意味を調べる。
- ③ 3つ目はスラスラ読めるようになるまで音読練習をする。
- ④ 4つ目は正確に書けるようになるまで書き取り練習をする。
- ⑤ 5つ目は計算・問題練習を何回もする。
- ⑥ 6つ目は過去に出た問題を5年分5回やり直す。
- ⑦ 7つめは間違えた問題は間違いノートにまとめて研究をするです。

3. おわりに

(1)以上の7つのことをやっていただくと、学力が「定着」します。このように一度「うんなるほど」と十分に「理解」したことが「定着」しますので、ぜひやってみて下さい。必ず学力が身に付きます。テストでよい点数がとれるだけでなく、上級学校に進学したときにも役に立ちます。社会に出てからも役に立ちます。一生役に立ちます。学力が高いか低いかは「理解」したことをどのように身に付けるか、「定着」させるかで決まりますので、ぜひ参考にさせていただければと思います。

(2)この7つが勉強で大切な「凡事」です。この7つの「凡事」を徹底的にやり抜くことが「凡事徹底」です。

— 2012年10月14日林明夫記—